

《担当者名》 芳賀 博（非） <h-haga@obirin.ac.jp>

【概 要】

ヘルスプロモーションとは、人びとが自らの健康とその健康決定要因をコントロールし、改善することができるようにするプロセスである。このことを地域の保健福祉活動の実践と結びつけて理解する。授業では、ヘルスプロモーションの考え方を理解するとともに、ヘルスプロモーションを展開する上での活動モデル及び評価について学ぶ。また、地域でのヘルスプロモーション活動の具体例を取り上げ、受講者でディスカッションするとともにそれに基づいた発表を行う。

【学修目標】

- 1) ヘルスプロモーションの理念を説明することができる
- 2) ヘルスプロモーションを展開するうえでの活動モデルを使いこなすことができる
- 3) 具体的にヘルスプロモーション計画を立案できる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 4	オタワ憲章とその背景の理解	WHOによる「Primary Health Care」から「Health Promotion（オタワ憲章）」に至る背景及びこれらの概念を理解するとともに、日本における健康づくり対策の変遷にみるHealth Promotion概念の位置づけと課題を整理する。	芳賀 博
5) 8	健康福祉の活動モデル	保健福祉活動の活動モデルの考え方、活かし方について学ぶ。具体的には、PRECEDE-PROCEEDモデル、地域づくり型保健活動、Project cycle management; PCM、参加型アクションリサーチ等について理解する。	芳賀 博
9) 10	ヘルスプロモーションの実践事例の検討	ヘルスプロモーションの「5つの活動方法」について実践事例を基に理解を深める。	芳賀 博
11) 12	ヘルスプロモーションの評価	評価とは何か。量的評価と質的評価、プロセス評価とアウトカム評価についての理解を深める。プロセス評価は、アクションリサーチにおける手法も参考にする。	芳賀 博
13) 15	ヘルスプロモーション計画の策定と討議	受講者それぞれの興味のあるテーマに沿って、地域（組織）で実際に取り組まれている健康づくり計画を取り上げ、ヘルスプロモーションの理念に基づいて評価する。	芳賀 博

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

プレゼンテーション（50％）およびレポート（50％）を総合評価する。レポート：13～15回で各自が取り上げたテーマに沿って授業での討議内容を反映させたものとする。

【教科書】

なし

【参考書】

ヘルスプロモーションの評価、成果につながる5つのステップ 鳩野洋子、曾根智史 訳 医学書院、2006年
 実践ヘルスプロモーション、PRECEDE-PROCEEDモデルによる企画と評価
 ローレスW・グリーン、マーシャルW・クロイター著、神馬征峰訳 医学書院、2005年
 アクションリサーチの戦略、住民主体の健康なまちづくり、芳賀博 編著 ワールドプランニング、2020年
 コミュニティ アズ パートナー～地域看護学の理論と実際～、エリザベス T. アンダーソン、ジュディス・マクファーレン 編集、金川克子、早川和生 監訳、医学書院、2015年

【学修の準備】

- 1) 毎回の授業に関連づけて学んだ内容を整理しておく。
- 2) 演習課題を完成させ授業で発表できるようにしておく。